SUPER FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.5

INDEX

2019 出場ドライバー紹介 ②③
今大会の見どころ ②
千代勝正が語るコースガイド ③
ショートインタビュー 片岡龍也 ④
インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは ――
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074　東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net

協力：TCS NAKAJIMA RACING

INTERVIEW NO.5

TCS NAKAJIMA RACING
ドライバー

牧野任祐

Tadasuke MAKINO

「皆さん、パロウが速くて、彼がポールを獲ると思ってたんじゃないかと思いますが、それを裏切れて良かったと思います」。

今年の開幕戦予選後の記者会見場で開口一番、ハッキリとした口調でそう言って記者の笑いを誘った牧野任祐。Q1、Q2とトップタイムをマークしたのはチームメイトのアレックス・パロウ。メディアもそのままパロウがポールを獲得するのではないかと囁き合っていた。だが、牧野はQ3で大方の予想を覆し、見事に逆転。パロウに対して100分の2秒差をつけデビュー戦ポールポジションという快挙を達成した。それが冒頭の言葉に繋がったわけだが、実際、牧野はホンダ期待の若手として、今最も勢いがあるドライバーの一人と言っていいだろう。だが、もしあの時、周囲の助けがなければ……。牧野は今、サーキットで走っていなかったかも知れない。

1997年6月28日、大阪で生まれた任祐は、両親にとって初めての子供。もともとは父・宰之（ただし）がレース好き、クルマ好き。趣味でカートにも乗っていたという。その父が、まだ5歳の任祐をカート場に連れていくと、「乗りたい、乗りたい」とせがんだ。それが牧野のレース人生の始まり。大阪府の北摂にあった関西カートランドに月に2度ほど通う日々が続いた。そのうち、レースに出るようになると、カート場通いは毎週のこととなり、小学校高学年の頃には真剣にレーサーになりたいと思い始めた。

ところが、ちょうど同じ頃、父が経営する会社の業績に陰りが出て、カートの費用捻出が難しくなってしまった。そこで父は任祐に「またやらせてやるから、1年間だけ我慢してくれ」とカート活動を休止するように告げる。2009年のことだった。父の言葉を信じて1年間待った任祐は、2010年から活動を再開。翌年には全日本カートFS125クラスでチャンピオンを獲得するなど華々しい活躍を見せる。それと同時に、実はFTRS（フォーミュラトヨタ・レーシングスクール）を受講して合格。ただし、スカラシップ生であっても翌年FCJ（フォーミュラチャレンジ・ジャパン）に出場するには数百万円の費用が必要だった。ところが折り悪く、この頃、父の会社の業績が再び芳しくなくなり、その費用を用意することができなかった。そこでスカラシップを辞退することに。完全に道は塞がれたように見えた。

「もう僕はレースを辞める」。“覚悟を決めた”任祐は、周囲の人々にも引退を告げた。一旦辞めるとなったら、もう二度とレースには関わらない。彼は心の中でそう決意していた。

その任祐を止めたのは、自らも一時レース活動を諦めかけた経験がある安田裕信。「カートでも何でもとにかく乗り続けていたら絶対にチャンスがあるから」と、自分が始めたばかりのカートチームに任祐を誘った。そこでヨコハマタイヤの開発ドライバーを務めてもらうためだ。安田はそれまで任祐と特に親しかったわけではなかった。だが、任祐の速さには気づいており、「辞める」という話を聞いた時に、何とかしたいと思ったのだ。

そこから次第に牧野の地図は広がり始める。現在でもツーリングカーのTCRジャパンシリーズで戦うジェントルマンドライバーである植田正幸の後押しを受け、牧野はスーパーFJで4輪レースデビュー。植田と付き合いがある鈴鹿のガレージ、MYSTの庄司富士夫も牧野をサポートした。牧野はMYSTの顧客がサーキット走行をする際、荷物運びや設営、クルマのワックスがけを手伝い、常に帯同した。そして、顧客が途中で走行を切り上げたりすると、残りの時間にドライブさせてもらうなど、少しでもチャンスがあれば走った。サポートを受けて出場しているレースにも、どれだけの資金が掛かっているかと言う現実を知った上で、「絶対に結果を出さなければならない」と、毎回覚悟を持って臨んだ。そうした努力と根性を見ていた周りの人々は、「プロになるならメーカー系に入らないとダメだ」と、牧野にSRS-F（鈴鹿サーキットレーシングスクールフォーミュラ）受講を勧め、費用の面でも手助けをする。

そして2015年、牧野はスカラシップを獲得。ホンダの若手として翌年には全日本F3デビューを果たした。非力なマシンながら雨の中でポールポジションを獲得するなど、その実力が認められる形で翌年には渡欧。初めての一人暮らしをしながら、ヨーロッパF3、そしてF2と2年間の海外生活を過ごす。初年度のF3ではレース環境やタイヤの違いに最初は戸惑い、前半戦は苦戦。またレース中のアクシデントで手首を骨折してしまう。そのため一時帰国。だが、怪我の回復を待つ間に気持ちが吹っ切れた。ヨーロッパに戻ってからは持ち前の勢いを見せ、成績も次第に上向いていく。そしてF2にステップアップ。ここでも新たなタイヤに慣れるまでは苦戦。結果が出ない時には日常の有り余る時間の中でついつい考え過ぎてしまう。その牧野をさらに追い詰めたのは、SNSのダイレクトメッセージ。誰とも分からない数々のアカウントから次々に卑怯な嫌がらせのメッセージが届いた。心無い言葉は牧野をキリキリと痛めつける。辛さを心に秘めての日々。だからこそ、モンツァ（イタリア）の第1レースを制した時には、“見たか!!”という雄叫びが飛び出した。

2年間のヨーロッパ生活で「精神力を鍛えられた」という牧野は、今年帰国。スーパーフォーミュラに参戦を開始する。「今はスーパーフォーミュラに100%集中して、ここで結果を出したい。そうすればF1への道も見えてくると信じている」と言う。帰国してから“感情を表に出すようになった”と言う牧野。どの大会でも速さを見せているだけに、一足先に優勝を果たしたチームメイトのパロウに続いて、牧野が喜びを爆発させるのもそう遠い日ではないはずだ。

Series Partner HONDA TOYOTA
Series Supporter YOKOHAMA
Promotion Partner HITACHI Inspire the Next 日立オートモティブシステムズ SONY RX0 NINKI-ICHI 人気酒造
Broadcasting Partner BSフジ J SPORTS

2019 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト（2019年8月13日時点）

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモ·チーム·ダンディライアン·レーシング

HONDA

1 山本尚貴

Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生／栃木県

RANKING 1 POINTS 27

DOCOMO DANDELION M1S SF19

昨年の最終戦で劇的な逆転勝利により、2013年以来2度目の王座に輝いた。今季8年間在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でも実力を発揮。第3戦で優勝した。

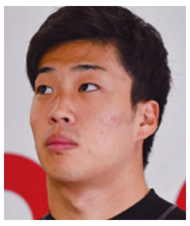
http://www.naoki-yamamoto.com

5 福住仁嶺

Nirei FUKUZUMI
1997年1月24日生／徳島県

RANKING 10 POINTS 8

DOCOMO DANDELION M5Y SF19



スーパーフォーミュラには昨年デビューしたが、F1直下のF2とのかけもちだったためフル参戦は今季が初めて。山本とともにチームを移り、第2戦で初入賞、第3戦でも入賞した。

https://twitter.com/nirei_fukuzumi

KONDO RACING

コンドー レーシング

TOYOTA

3 山下健太

Kenta YAMASHITA
1995年8月3日生／千葉県

RANKING 7 POINTS 11

ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に全日本F3王者となり、翌年スーパーフォーミュラに。その年の第4戦もてぎで初のポールポジションを獲得。今季開幕戦で3位表彰台、第2戦、第3戦と連続入賞している。

http://kentayamashita.jp

4 国本雄資

Yuji KUNIMOTO
1990年9月12日生／神奈川県

RANKING 13 POINTS 5

ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた、現役では最年少のチャンピオン。今季、8年間在籍したセルモインギングから移籍し、第2戦でポールポジションを獲得した。

http://yujikunimoto.com

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモ スノコ チーム ルマン

TOYOTA

7 アーテム·マルケロフ

Artem MARKELOV 1994年9月10日生／ロシア

RANKING — POINTS 0

UOMO SUNOCO SF19

レーシングカートから、フォーミュラレースに進み、ドイツF3やGP2、F2で戦ってきた。F2では一昨年シリーズ2位。昨年は、ルノーF1のテストドライバーも務めた。

http://amarkelov.com

8 大嶋和也

Kazuya OSHIMA
1987年4月30日生／群馬県

RANKING 11 POINTS 6

UOMO SUNOCO SF19

2011～12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活へ向けてチームを牽引する。今季は第2戦で3位入賞。さらなる躍進が期待される。

https://twitter.com/oshima_kazuya

TEAM MUGEN

チーム·ムゲン

HONDA

15 パトリシオ·オワード

Patricio O'Ward
1999年5月6日／メキシコ

RANKING — POINTS 0

TEAM MUGEN SF19

ダニエル·ティクトゥムに代わり、第4戦から新規参戦。昨年、アメリカのインディライツシリーズでチャンピオンを獲得。今年はインディカーシリーズに参戦している。

http://www.patriciooward.com

16 野尻智紀

Tomoki NOJIRI
1989年9月15日生／茨城県

RANKING 8 POINTS 10

TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。翌年から毎年ポールポジション獲得と速さは折り紙つき。5年間在籍したチームから今季移籍し、開幕戦と第4戦で4位入賞。

https://twitter.com/tomoki_nojiri

REAL RACING

リアル レーシング

HONDA

17 塚越広大

Koudai TSUKAKOSHI
1986年11月20日生／栃木県

RANKING — POINTS 0

REAL SF19

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌年から現チームに移籍し戦ってきた。開幕戦に出場したトリスタン·シャルパンティエに代わり、第2戦から復帰した。

http://www.tsukakoshikoudai.net/

carrozzeria Team KCMG

カロッツェリア チーム ケーシーエムジー

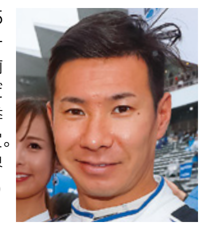
TOYOTA

18 小林可夢偉

Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日生
兵庫県

RANKING 6 POINTS 11

KCMG Elyse SF19



F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目前まで行きながらまだ勝利はないが、今季は第3戦で2位入賞。2016年からは世界耐久選手権（WEC）でも活躍している。

http://www.kamui-kobayashi.com/

ここに注目!

決勝では変則2ピット作戦組も要マーク

全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦のもてぎは、お盆時期ということだけでなく内陸部ということで、例年最も暑いコンディションのレースとなる。

今シーズンここまでの4戦を振り返ると、開幕戦鈴鹿ではニック・キャシディ、第2戦オートポリスでは関口雄飛、第3戦SUGOでは昨年度チャンピオンの山本尚貴、第4戦富士ではルーキーのアレックス・パロウと毎回勝者が変わっている。それだけ混戦模様であり、今回も新たな勝者が生まれる可能性は十分だ。

その優勝への最短距離となるのは、やはり予選でのポールポジション獲得。これはどんなコースやレースにも言えることだが、今回その予選で誰が速さを見せるのかは全くの未知数。今季から導入されたニューシャシーSF19での全チームによる走行テストは、もてぎでは行われておらず、予選前日の専有走行が初めてのテストセッションとなるからだ。この時、持ち込んだセットアップの良し悪しがようやく判明する。そこから各チームは予選に向けてマシンを合わせ込んで行くことになるだろう。

ノックアウト方式の予選では、今回もミディアムタイヤを使用してのQ1がカギとなる。もてぎのコース長は約4.8kmと決して短くはないが、20台のマシンが一斉にコースに出た場合、各所で渋滞が起きる可能性が高い。その状況で12位までに入らなければならず、アタックのタイミングを上手く図る必要がある。

続くQ2、Q3ではソフトタイヤでのアタックとなるが、夏場ということもあり、昨年はアウトラップからすぐタイムアタックするドライバーと、アウトラップに加えてウォームアップラップを走ってからタイムアタックするドライバーに分かれた。その違いもわずかなタイム差となって出てくるかも知れない。誰が何周目、どういうタイミングでアタックするかは予選の見どころのひとつだろう。

決勝もエキサイティングな展開になるのは間違いない。もてぎのコースはストップ＆ゴーレイアウトということで、かつては非常にオーバーテイクが難しいサーキットと言われていた。だがタイヤの2スペック制が導入され、オーバーテイクシステムも備えるスーパーフォーミュラでは、各チームのタイヤ選択や戦略によって随所でオーバーテイクシーンが見られる。もてぎはピットロードが短いため、作戦の差が影響しやすいからだ。

昨年のレースでは、各ドライバーのスタート時のタイヤ選択が分かれただけでなく、変則2ピット作戦を採用したことで大きく順位を上げたドライバーも現れた。グリッドが下位に沈んだ場合、この作戦は非常に有効。ミディアムタイヤでスタートし、わずか1周しただけでピットイン、その後をソフト2セットでつなぐというやり方（途中給油の必要が出てくるため2回目のピットインが必要になる）だが、ピットでのロスタイムを上回る取り分がコース上で得られる。今年も同じ作戦を採るチームが出てくる可能性は大だろう。

グリッド最上位のドライバーたちは、ソフトタイヤスタートでできる限り長く引っ張ってからミディアムに交換＋給油という王道の作戦を採ってくるだろうが、その後ろで誰がミディアムタイヤスタートを選択するかも見どころのひとつ。ミディアムスタート組は燃費のウィンドウが開いたところ（給油の適正なタイミング期間が訪れること）で、早めのピットインを選択することになるだろうが、その集団のトップに出るのは誰か。そこからピットイン前の上位集団とのタイム差がどう推移するのかが実際の見どころとなる。テレビの画面からはなかなか伝わらない部分かも知れないが、スーパーフォーミュラのアプリを起動させ、ライブタイミングを見ながら楽しんでいただきたい。

Team Pit —— ピット割り

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	JSB 1000	3/4	

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
JSB 1000	38/39		JSB 1000	15/16		JSB 1000	19/20		JSB 1000	1/5		JSB 1000	36/37	

31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
JSB 1000	7/8		JSB 1000	64/65		JSB 1000	JSB 1000	18	JSB 1000	JSB 1000	17	JSB 1000	50/51	

««« 1st Corner

Starting Grid —— スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

2 No.	4 No.	6 No.	8 No.	10 No.	12 No.	14 No.	16 No.	18 No.	20 No.
1 No.	3 No.	5 No.	7 No.	9 No.	11 No.	13 No.	15 No.	17 No.	19 No.

：Twitter　：Facebook　：Instagram　★は今季スーパーフォーミュラルーキー

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL　TOYOTA

イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛

Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生／東京都

RANKING 5　POINTS 11

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、翌年2勝、昨年も1勝する活躍ながらまだタイトルの経験はない。今季も第2戦で優勝、初のチャンピオン獲得を目指す。

https://twitter.com/yuhisekiguchi

20 平川 亮

Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生／広島県

RANKING —　POINTS 0

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以来3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台と光る走りを見せた。今季は初優勝が期待される。

https://twitter.com/ryohirakawa

VANTELIN TEAM TOM'S　TOYOTA

バンテリン チーム トムス

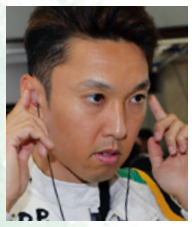
36 中嶋一貴

Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生／愛知県

RANKING 14　POINTS 4

VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年に続きル・マン24時間レースで2連覇を遂げた。



http://www.kazuki-nakajima.com/

37 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY　1994年8月19日生／ニュージーランド

RANKING 2　POINTS 22

VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は富士で初優勝し、タイトルを争った。今季、コンドー レーシングより移籍し、開幕戦で優勝。新チームで再び王座獲得を目指す。

https://twitter.com/nickcassidy_

JMS P.MU/CERUMO•INGING　TOYOTA

ジェームス ピーエムユーセルモインギング

38 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生／東京都

RANKING 15　POINTS 4

JMS P.MU/CERUMO•INGING SF19

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルにあり、昨年も第5戦もてぎで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。3度目の王座獲得を狙う。

https://ameblo.jp/ishiura/

39 坪井 翔★

Sho TSUBOI
1995年5月21日生
埼玉県

RANKING 4　POINTS 12

JMS P.MU/CERUMO•INGING SF19

昨年、圧倒的な速さと強さ全日本F3王者に輝き、今季スーパーフォーミュラにデビュー。第4戦で2位表彰台と注目の存在だ。スーパーGTでも今季GT500クラスへ昇格した。

http://xyz-one.jp/tsuboi/

B-Max Racing with motopark　HONDA

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

50 ルーカス・アウアー★

Lucas AUER　1994年9月11日生／オーストリア

RANKING 9　POINTS 8

Red Bull SF19

ドイツ＆ヨーロッパF3を経て、DTM（ドイツツーリングカー選手権）で活動。今季、初参戦し、第3戦で3位に入った。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。

https://twitter.com/lucasauer1

51 ハリソン・ニューウェイ★

Harrison NEWEY　1998年7月25日生／イギリス

RANKING —　POINTS 0

GOLDEX TAIROKU RACING SF19

ジュニアフォーミュラ、F3を経て、昨年はスポーツカーレースに参戦。今季、日本のレースに初参戦を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。

https://www.harrisonnewey.com

TCS NAKAJIMA RACING　HONDA

ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 アレックス・パロウ★

Alex PALOU　1997年4月1日生／スペイン

RANKING 3　POINTS 14

TCS NAKAJIMA RACING SF19

2017年に全日本F3で鮮烈デビューし、年末のスーパーフォーミュラルーキーテストでも速さを顕示。昨年はユーロF3を戦い、今季スーパーフォーミュラ初参戦。第4戦で初優勝を遂げた。

https://www.alexpalou.com

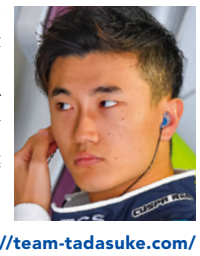
65 牧野任祐

Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生／大阪府

RANKING 12　POINTS 6

TCS NAKAJIMA RACING SF19

カート時代に頭角を現し、2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝。今季デビューの開幕戦でポールポジションを獲得した。



http://team-tadasuke.com/

千代勝正が語るツインリンクもてぎ

立ち上がり重視が多く、燃料の影響も大

もてぎはストップ＆ゴーのレイアウト。ブレーキング、旋回、加速が全体的に続くので平均速度は低めです。低速コーナーからの加速や直線からのブレーキングが多く、他のコースとはキャラクターが違うと思います。また全体的にコーナーにバンクがついていなくてフラットですね。

1～2コーナーは2つのコーナーを一つにしたようなコーナーで、アウト・イン・アウトというよりも、一度1コーナーと2コーナーの間でコースの真ん中までふくらんで、またインにつきます。大きく入る人もいれば、小さく入る人もいて、ライン取りに個性が出るコーナー。セクター1のタイムへの影響が大きいですし、立ち上がりは2コーナーから3コーナーへの速度を決めるので、コース幅をとにかく目いっぱい使って、速度を乗せていく必要があります。

続く3コーナーはまっすぐブレーキング。コースが少し狭く見えますが、そこでいかにボトムスピードを落とさず速度を高く保って走れるかがポイントで、コース幅はやはりいっぱいまで使います。そこから曲がった状態で加速していきますが、クルマの仕上がりによって、トラクションのかかり方に差が出ますね。3コーナーでホイールスピンすると、4コーナーまで引きずってセクタータイムにも影響します。

4コーナーはSF19だと多分全開で抜けていくコーナー。5コーナーはヘアピンまではいかないまでも角度のきついV字型のコーナーで、やはりブレーキングも、そこからの加速も大事な場所。3～4コーナーの立ち上がりを上手く使って、5コーナーでインに飛び込むということが可能なオーバーテイクポイントでもあります。

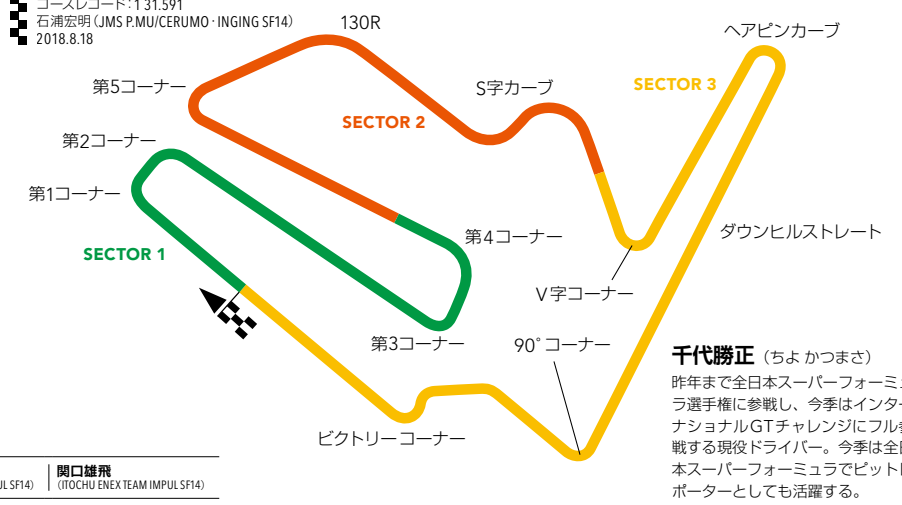
その先の130Rは全開。続くS字の飛び込みは見ていても迫力があり、ドライバーにとってもチャレンジングな場所です。ダウンフォースを活かして飛び込む唯一のハイスピードコーナーです。1つ目と2つ目のリズムやライン取りが重要で、1つ目は結構飛び込み重視で行く人が多いですね。2つ目はそこから速度を落とさずに、立ち上がり重視で行きます。その立ち上がりの勢いのまま、次のV字コーナーではインに飛び込んでオーバーテイクするということもできる場所です。

V字コーナーはタイヤへの依存度が高くてブレーキでリヤがロックしやすく、立ち上がりでホイールスピンしやすい。その先が上りになっているので、ホイールスピンするかしないかでヘアピンまでのスピードが変わってきます。ヘアピンはバックストレートに向けて速度を乗せていく。ここもインに飛び込める場所です。結構回り込んでいて、2速でステアリングを切ったまま加速しないといけないのでトラクションをかけるのが難しい。タイヤが消耗するレース後半は段々厳しくなってきますが、そうなるとバックストレート（ダウンヒルストレート）でスリップに入られて抜かれることも起こります。

下りの90度コーナーは、今のSF19のダウンフォースとクルマの性能を100%使って、フルブレーキングで短い時間に減速するコーナー。下っている分、コーナーの真ん中で少しフロントのグリップが抜けやすいので、しっかり止めて曲げて、立ち上がらないといけない。オーバーテイクポイントでもありますね。

最終のビクトリーコーナーは左、右と曲がるコーナーで、1つ目はかなり高い速度から横Gがかかった状態でのブレーキングのためクルマが不安定になります。でも、手前からかなり大きくアプローチして、左側の縁石ギリギリまで攻めないとタイムが出ず、行き過ぎると2つ目の立ち上がりが厳しくなります。ここは上りで、コントロールラインまでかなり距離があるので、ビクトリーコーナーは立ち上がり重視で走らなければいけない。飛び込みと立ち上がりのコンビネーションが難しいコーナーです。でも、工夫しやすいコーナーですし、クルマの差が出やすい場所でもありますね。燃料（ウェイト）の影響が大きいコースなので、決勝では各チームの戦略が楽しみです。

COURSE DATA
全長：4.801km
コースレコード：1'31.591
石浦宏明（JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14）
2018.8.18



千代勝正（ちよ かつまさ）
昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでピットレポーターとしても活躍する。

過去3年の結果（優勝者｜PP）

2018	石浦宏明（JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14）	石浦宏明（JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14）	2017	P.ガスリー（TEAM MUGEN SF14）	N.キャシディ（FUJI×raffinee KONDO SF14）	2016	関口雄飛（ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14）	関口雄飛（ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14）

SHORT INTERVIEW

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS監督
片岡龍也

チームの色が出始めた。これから本物の色になる

かたおか・たつや
1979年5月1日生まれ、愛知県出身。
12歳でレーシングカートを始め、2000年にはフォーミュラトヨタレーシングスクールの初代スカラシップ生となる。01年に4輪デビュー、以来、全日本F3、全日本GT、SUPER GT、全日本選手権フォーミュラ・ニッポンとキャリアを重ねる。SUPER GTでは2009、14、17年にGT300クラスのタイトルを獲得。近年は、国内外の耐久レース参戦も多数。

Q：現役選手ながら監督業でも多忙です。
「今や7割は（クルマに）乗らない仕事です。僕自身、ヤマハのレーシングカートをはじめ、トヨタでスカラシップを取るなど早くからプロフェッショナルな体制に身を置かせて頂き、18歳でプロ契約してもう20年を超えました。年齢が来れば自ずと引退する中で、自分は何ができるんだろうと想像したときに、いろいろな人のおかげで積むことができた経験を誰にも伝えずに辞めるのは無責任だと思うようになったんです。この経験を活かすべきだと思い、まずカートチームの面倒を見始めたのですが、そしたら次々と話が来て、断ることなく受けていくといつの間にかトップカテゴリーの監督もするようになりました」

Q：SFの監督は3年目を迎えました。
「他のカテゴリーは教えることがメインですが、SFはすでにプロとして出来上がっているチームなのでまったく役割が異なります。どうしたらチームがうまく機能するかを見極めるのが主な仕事です。基本的に有能なスタッフが集まっていますが、ただ結果が出ていない。つまりチームとしてうまく機能していませんでした。そこで、チームというひとつの組織になるために何が足りないのかを考え、動くようにしました。みんながストレスなく仕事ができるようになればいいなという思いがありますね。たとえば、メカニックなどは普段なかなかドライバーに聞きにくいこともあるようで、彼らの質問に対し、ドライバーとしての経験値から答えることもあります。多少なりともドライバー目線で意見を伝えられるのは、“ハイブリッド監督”ならではのことと思っています」

Q：今季はチーム体制に変化がありました。
「大嶋は状況さえ整えば結果を出してくれると思っているので、過度なプレッシャーはかけないようにしています。マルケロフはSF19の理解が深まればもっと伸びるかと。どうしたら彼のモチベーションが上がるのか、探っているところです。一方、元々チームにいた強烈なエネルギーを持つ阿部和也エンジニアが戻って来たことで、最初はスタッフ同士ぶつかることもありましたが、結果が出てくることでそれぞれ持っていた心の中のモヤモヤも消え去っているようです。やっとチームがまとまり、気持ちが同じ方向に向いているという感じがします。次世代のチーム作りはまだ形成しきれていませんが、結果が出てくるとチームとしての色も出始めてきたし、スタッフも『その色に染まってもいいかな』という思いになっています。ここからさらに手応えを積み重ねることで本物の色になってくると思いますが、今はまだその入口に来たに過ぎないと思っています」

Q：後半戦を迎え、チームとしての目標は？
「シンプルに1勝を目指します。勝つ以外目標はないですね。たとえ表彰台に上がったとしても、それは勝つこととは意味が大きく違いますから。もちろん、簡単なことではありませんが、やはり1勝できたらいろいろなことが大きく変わると信じています。1勝できれば、次の目標も出てくるでしょう。今年はそのチャンスが見えてきたので、上昇気流を感じている間にいい結果を！と思います」

観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……
公式アプリ
順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！
http://superformula.racelive.jp/

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

リザルトやコメントを見るなら……
オフィシャルサイト
走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！
http://superformula.net

リアルタイムな情報収集には……
Twitter
SUPER FORMULA公式アカウント @super_formula
TOYOTA GAZOO Racing @toyota_gr
HondaモータースポーツLive @hondajp_live
公式ハッシュタグは「**#sformula**」

記事やダイジェスト動画は……
Facebook
スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook
https://www.facebook.com/superformula.official

YouTube
YouTube公式チャンネル
https://www.youtube.com/user/superformulavideo

SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP
全日本スーパーフォーミュラ選手権 2018年総集編DVD発売中!
世界が注目する国内トップフォーミュラ、SF14ラストイヤーとなる激動の1年間を振り返る。2018年シーズンの全7戦をダイジェストで収録。完全保存版！

お求めは公式サイトへ!

特典映像：SUPER FORMULA 2018シーズンPV、SF19 デモラン（佐藤琢磨&中嶋一貴・ランデブー走行）
価格：5,400円（税込）

全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦 ツインリンクもてぎ 公式プログラム販売中
モビプラザ、スーベニアもてぎ、グランツーリスモカフェショップ、ホンダコレクションミュージアムショップで販売しています。
価格：1,000円（税込）

CLUB F SUPER FORMULA OFFICIAL FAN CLUB

オフィシャルファンクラブ CLUB F
新規会員受付中！
年間パスの販売や各大会ごとのオリジナルチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定！ 詳しくはオフィシャルサイト(https://superformula.net/sf2)内のファンクラブページをご覧ください

SUPER FORMULA Virtual Series
JAF認定 スーパーフォーミュラ・ヴァーチャルシリーズ 第3回 津南大会
2019年10月6日（日）

KRS KTEL RACE SERVICE

TV放映／映像配信

BSフジ
BSフジ 決勝レース中継
『2019スーパーフォーミュラ選手権 第5戦ツインリンクもてぎ』
今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の午後5時～6時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レースの見どころ、ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。実況はフジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ野崎昌一が担当。解説には元レーシングドライバーの鈴木亜久里があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正がピットレポーターを務めます。
○放送時間：8月18日（日）　午後5時00分～6時55分

BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』
スーパーフォーミュラの情報番組としてホットな話題を提供する「スーパーフォーミュラGO ON!」。今年は、国内外から多くの若手ルーキーなど注目ドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。番組の進行役は本田朋子アナ、ナレーターは乃木坂46の樋口日奈が担当します。
○放送時間：第6回　9月13日（金）夜　11時00分～11時55分
9月15日（日）深夜 1時00分～ 1時55分（再放送）

J SPORTS『スーパーフォーミュラ2019』
全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェストも放送します。
○放送時間：8月17日（土）　午後2時20分～ J SPORTS 2
8月18日（日）　午後1時45分～ J SPORTS 2

GYAO!
大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信予定。
http://gyao.yahoo.co.jp/sports/

TIME SCHEDULE タイムスケジュール

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

RACE レース

8月17日（土）

8:20- 8:50	F3 予選
9:05- 9:25	N-ONE 予選
9:40-10:40	SUPER FORMULA フリー走行
10:50-11:35	ピットウォーク
12:00-13:00	JSB1000 予選
13:35-	N-ONE 決勝［7Laps］
14:30-14:50	SUPER FORMULA 公式予選（Q1）
15:00-15:07	SUPER FORMULA 公式予選（Q2）
15:17-15:24	SUPER FORMULA 公式予選（Q3）
16:15-	F3 第16戦 決勝［14Laps or 35min］
17:00-17:30	キッズピットウォーク

8月18日（日）

8:25-	F3 第17戦 決勝［14Laps or 35min］
9:20- 9:40	JSB1000 フリー走行
10:00-10:30	SUPER FORMULA フリー走行&スタート練習
10:45-11:30	ピットウォーク
12:10-	JSB1000 決勝［23Laps］
14:15-	SUPER FORMULA 決勝［52Laps or 90min］
16:35-	F3 第18戦 決勝［20Laps or 45min］

EVENT イベント

8月17日（土）

8:15- 8:30	オープニングステージ　MC：水村リア、笠原美香
8:30- 8:45	サーキットクイーンステージ　出演：ツインリンクもてぎエンジェル
9:20- 9:35	SFビギナーズトーク　出演：YOKOHAMA promotional models　MC：水村リア、笠原美香
11:30-11:50	N-ONE OWNER'S CUPトークショー　出演：中山友貴　MC：水村リア
12:00-12:20	SFドライバートーク 出演：山本尚貴選手、野尻智紀選手、山下健太選手、大嶋和也選手　MC：水村リア、笠原美香
12:20-12:25	SUGOコースレコードタイヤ贈呈式　出演：山本尚貴選手　MC：ピエール北川、水村リア
13:00-13:15	SF予選直前トーク　出演：千代勝正　MC：水村リア、笠原美香
13:30-14:00	レースクイーンステージ　出演：各チームレースクイーン　MC：水村リア、笠原美香
15:40-16:00	JSBライダートーク　出演：予選TOP3ライダー　MC：柿沼佐智子
17:00-17:20	テクノロジーラボラトリー　出演：両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト　MC：笠原美香

8月18日（日）

8:15- 8:30	オープニングステージ　MC：水村リア、笠原美香
8:30- 8:45	サーキットクイーンステージ　出演：ツインリンクもてぎエンジェル
9:05- 9:20	SFビギナーズトーク 出演：YOKOHAMA promotional models&スペシャルゲスト　MC：水村リア、笠原美香
9:30-10:00	レースクイーンステージ　出演：各チームレースクイーン　MC：水村リア、笠原美香
10:20-10:40	JSBライダートーク　出演：高橋巧選手、秋吉耕佑選手、水野涼選手　MC：柿沼佐智子
10:45-11:00	SF決勝直前トーク　出演：千代勝正　MC：水村リア、笠原美香
11:20-11:40	SF監督トーク　出演：本山哲監督、中野信治監督、松田次生監督　MC：ピエール北川、水村リア
11:45-12:00	SFポールポジションドライバートーク 出演：ポールポジション獲得ドライバー　MC：ピエール北川、水村リア、笠原美香
12:05-12:20	ホンダドライバーアピアランス 出演：福住仁嶺選手、パトリシオ・オワード選手、塚越広大選手、ハリソン・ニューウェイ選手、牧野任祐選手 MC：ホンダスマイル
16:05-16:25	テクノロジーラボラトリー 出演：優勝チームエンジニア、両角岳彦、浅見理美　MC：水村リア、笠原美香
16:45-17:00	SF優勝ドライバートーク　出演：優勝ドライバー　MC：ピエール北川、水村リア、笠原美香